

令和元年6月25日現在

機関番号：32412

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K21332

研究課題名(和文) 宗教的パラケルスス主義 初期近代ドイツ語圏の「科学」と「宗教」

研究課題名(英文) Religious Paracelsianism: Science and Religion in the German-speaking Area of the Early Modern Age

研究代表者

村瀬 天出夫 (MURASE, Amadeo)

聖学院大学・人文学部・特任講師

研究者番号：40768503

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、科学革命の潮流と宗教改革の潮流が交差する初期近代の「宗教的パラケルスス主義」と呼ばれる思想運動について、これの初期段階に焦点を当て、そこに現れる自然神学的な思想を明らかにした。とりわけパラケルスス主義者パウル・リンクの著作『三時代について』(1599/1602)および偽パラケルスス文書『医師たちのテインクトゥアについて』(初版1570)を取りあげ、そこに見られる終末論的な議論(救済史の枠組み、三時代論、「黄金の時代」への期待、化学的な聖書解釈、終末における学問の進歩)を取りだすとともに、それらを当時の歴史的な文脈(中世スコラ主義との対決、宗派化の時代)に位置づけた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は未開拓の文書群をとりあげることによって初期近代の科学・宗教思想史における未開拓領域への貢献を果たした。また初期近代の「科学と宗教」の相互作用にかんする研究動向に「宗派化の時代」への視点を導入するとともに、初期近代ドイツ語圏の「パラケルスス主義」にかんする知見を加えた。また17世紀のポスト宗教改革期の神学思想、とりわけ「ドイツ敬虔主義」に至るプロセスにおける宗教的パラケルスス主義を位置づける端緒を拓いた。さらに邦訳を刊行することによって国内におけるパラケルスス著作の紹介および原典翻訳の拡充に貢献した。

研究成果の概要(英文)：Devoted to the "religious Paracelsianism", which emerged as an intellectual movement in the age of the Scientific Revolution and the European Reformation, this study shows natural-theological thoughts of the early modern followers of the Swiss physician Paracelsus (1493/94-1591). Regarding with the beginning phase of the movement, it takes up the religious tract of the Paracelsian Paul Linck, Von den Dreyen Seculis (1599/1602) and the Ps.-Paracelsian treatise De tinctura physicorum (first published in 1570) to show their eschatological arguments (e.g. its framework of the salvation history, theory of the three ages, chemical interpretation of the Bible and the hope for the advancement of learning in the aureum seculum) and contextualizes the movement in terms of the academic and religious circumstances of that age (the confrontation with the medieval scholasticism and the early modern religious schism in the "Age of Confessionalization").

研究分野：宗教思想史、科学思想史

キーワード：パラケルスス主義 科学と宗教 初期近代 近世 ドイツ語圏 パラケルスス

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

背景と動機

初期近代ドイツ語圏の医師パラケルスス (Paracelsus 1493/94-1541) および彼に端を発する学問改革運動パラケルスス主義についての研究は、その思想が近代医学および近代科学の成立に重要な役割を果たしたことから、これまで研究者の医学・自然科学的な思想に集中してきた。しかし 1990 年代以降、研究者の関心はパラケルススの神学思想へとシフトしつつある。すなわちパラケルススおよびパラケルスス主義者たちの「宗教性・霊性」に光を当て、その思想の後世への影響を再検討しようとする機運が高まってきたのである。

この研究方向を発展させるため、研究代表者はこれまでパラケルススの医学・自然科学思想についての伝統的な研究と、新たな動向である神学研究との統合を目指してきた。具体的には 1560 年代以降の「医学的パラケルスス主義」を取り上げ、17 世紀「科学革命」につながる医学・化学上の思想がいかにパラケルススとその支持者たち固有のキリスト教思想 (とくに終末論的な世界観) によって支えられていたかを明らかにした (注 1)。さらに、この「医学的パラケルスス主義」は 16 世紀末以降、医学・化学的な領域を越えて、宗教思想としての性格を強めていったことを確認した。ここで見えてきた「パラケルスス主義の宗教化」のプロセスはこれまで未開拓の研究領域であり、また同時代のプロテスタント思想との関連においても重要であるため、その解明を本研究の課題とするに至った。

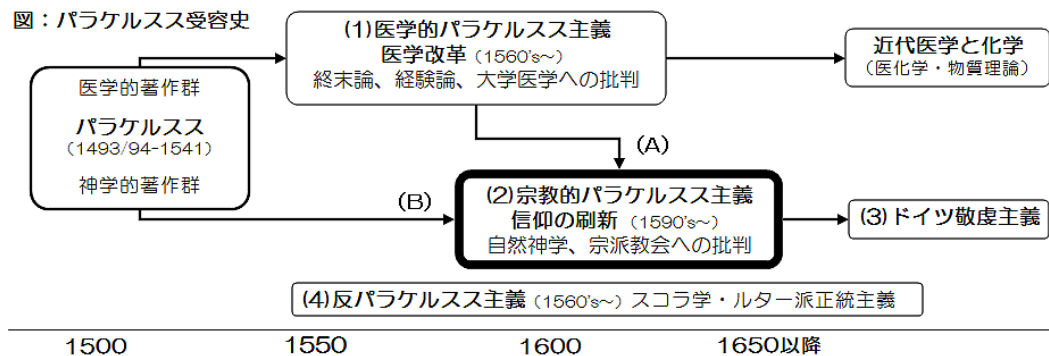
注 1 : Amadeo Murase, Paracelsismus und Chiliasmus im deutschsprachigen Kulturraum um 1600, Diss., Univ. Heidelberg 2013.

2. 研究の目的

本研究が具体的に明らかにしようとするのは、1590 年代以降の「宗教的パラケルスス主義」の成立と発展である。すなわち、当初学問改革を目指していた「医学的パラケルスス主義」が宗派対立と社会政治的な争乱が相次ぐ時代に、ルター以来の「宗教改革の完成」および「宗派対立の克服」を追求する神学的な運動へと展開していった過程を跡づける。とりわけ、その医学・化学的な思想 (医化学) から発展していった独自の神学思想 (医化学的な自然理解にもとづく「自然神学」) を究明する。このような科学思想と宗教思想との接点の解明を本研究の目的とする。

包括的なパラケルスス受容史研究の計画案を下図に示す。「(1)医学的パラケルスス主義」は研究代表者による先行研究であり、本研究は「(2)宗教的パラケルスス主義」の前半期 (16 世紀末) を対象とする。前者 (1) が後者 (2) へどのように変容・発展していったか (矢印 A)、またパラケルスス自身の神学思想が「宗教的パラケルスス主義」にどのような影響を与えたか (矢印 B) を本研究で明確にする。なお「(2)宗教的パラケルスス主義」の後半期 (17 世紀初頭の時代)、「(3)ドイツ敬虔主義」への影響、「(4)反パラケルスス主義」による反応と批判については今後の研究課題とする。

図：パラケルスス受容史



3. 研究の方法

本研究課題は以下の 6 つの方法論的な観点から進められた。(1) 資料の範囲とグループ化 : (1-1) 神学的内容を含む「パラケルスス文書」、(1-2) 当該の時期に出版された「偽パラケルスス文書」、(1-3) 神学的内容を含む「パラケルスス主義者の著作」(特にパウル・リンク『三時代について』)。(2) 内容の分析 : (2-1) 神学的議論 (特に論争神学への反応と自然神学)、(2-2) 歴史観 (終末論および救済史の枠組み)、(2-3) 「パラケルスス主義」的な特徴と影響。これらの観点から研究を進めるとともに、毎年、国内外での研究発表を重ねつつ論文の執筆と刊行を進めた (次項 4. 「研究成果」を参照)。

4. 研究成果

【主な成果】本研究は「宗教的パラケルスス主義」と呼ばれる運動の成立と初期の発展段階に焦点を当て、とりわけパラケルスス主義者パウル・リンク (Paul Linck, fl. ca. 1600) ならびに偽パラケルスス文書を例として取りあげることによって彼らの独自の宗教思想 (終末論的な自然神学) を明らかにした。パウル・リンクについてはこれまでの国際的な研究において (その重要性は指摘されていたものの) 彼の具体的な思想内容については不明のままであった。本

研究はこれを打開する第一歩として、その代表的著作『三時代について Von den Dreyen Seculis』を取りあげ、その神学思想を明らかにした。特にパラケルスス受容史および社会的文脈(「宗派化の時代」との関連、歴史観(「三時代論」、終末論(「黄金の時代」への期待)、自然神学(終末にかかわる聖書記事のパラケルスス主義的な解釈)を明らかにした。

また偽パラケルスス文書『医師たちのティンクトゥアについて De tinctura physicorum』を取りあげ、そこにおけるパラケルスス主義的な終末論を明らかにした。この偽文書は現代まで繋がるパラケルスス受容史においてきわめて重要な著作であるが、偽書という性格からこれまでの研究史においては周辺的な扱いに留まっていた。本研究ではこれの重要性を指摘するとともに、その自然哲学的内容と時代文脈(中世スコラ主義との対決)、終末論的な時代観(学問の「墮落史」、三時代論、終末における「学問の進歩・完成」とパラケルスス思想との比較、後世への影響、パラケルスス像の変容を明らかにした。

【国内外における位置づけとインパクト】これらを明らかにした本研究の具体的な意義は以下の4点に求められる。第1は「未開拓領域への貢献」である。すなわち本研究が対象としてきた歴史的人物および著作群は、今なおその大部分が未開拓の状態にあり、今後数十年にわたって世界の研究者によって大きな研究成果が期待される分野であるが、本研究はこのように日本国内を含む国際的な研究領域において未だ扱われてこなかった文献に光をあてた。このことは本研究の第2および第3の意義とかわる。すなわち初期近代の科学と宗教の相互作用にかんする研究動向に「宗派化の時代への視点」を導入したことである(第2の意義)。当該の時代はカトリック教会、ルター派、カルヴァン派らの諸教会が社会的な制度として成立した「宗派化の時代」と呼ばれるが、このような体制化を批判する「対抗運動」の一つとして「宗教的パラケルスス主義」を位置づけるとともに、この「宗派化の時代」の議論に新たな視点を導入した。また、このことは本研究の第3の意義である「科学と宗教 理解への発展的貢献」とも関わる。すなわち、科学と宗教の歴史的な関連はこれまでもっぱら英語圏における歴史的状況ないし著名な科学者が対象とされてきたが、本研究はこれに初期近代ドイツ語圏の「パラケルスス主義」にかんする知見を加えるとともに、より包括的かつ比較可能な視点を導入する端緒が開拓されたのである。最後に第4の意義として「ドイツ霊性史のミッシング・リンク」解明への貢献である。16世紀前半のパラケルススから17世紀のポスト宗教改革期の神学思想、とりわけ「ドイツ敬虔主義」へと至る経過(ミッシング・リンク)を明らかにするにあたって、本研究は「宗教的パラケルスス主義」の存在をここに位置づけることへの第一歩に繋がった。

【当初予期していなかった新たな知見】なお、本研究においては国内外での研究発表と議論、とりわけ国際シンポジウム(下記「学会発表」、)を通じて、当初本研究の対象にはなっていなかったパラケルスス本人の著作および他の偽パラケルスス文書の重要性が認識された。その一つはパラケルススの著作『像について』であるが、そこにおける魔術的な自然哲学と神学および終末論的な議論と、後の「宗教的パラケルスス主義」との関連性を検討する余地が本研究を通じて見えてきた。研究代表者はその著作内容(自然魔術の擁護、終末論、ホムンクルス論など)と受容史における位置づけを明らかにするとともに、この著作の邦訳を刊行することによって国内におけるパラケルスス著作の紹介および原典翻訳の拡充に貢献した。

【今後の展望】本研究は以下のとおり新たな建設的かつ国際的な研究プロジェクトへ発展している。すなわち研究代表者は本研究において、国内外での発表および議論に努めてきたが、そこにおいて他のパラケルスス著作(例えば『妖精について De nymphis』)ならびに偽パラケルスス文書(例えば『事物の本性について De natura rerum』)の重要性も確認された。これらの著作と「宗教的パラケルスス主義」との関連が今後のさらなる研究課題として浮かび上がると同時に、研究代表者は国際的な(日米独仏の研究者が参加する)パラケルスス研究グループの構築に努め、国際的な論集発行の企画を進めている(下記「その他」Webリンク参照)。なお、研究代表者は新たに2019年度の科研費(若手19K12971)に採択されており、これらの国際的論集プロジェクトならびに本研究から得られた知見に基づいた発展的かつ統合的な研究が、この新しい科研費の枠組みの中で進められることとなった。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計3件)

Amadeo Murase, Alchemie und Eschatologie. Der deutsche Paracelsist Paul Linck und seine Heilsgeschichte, 国際シンポジウム:ルネサンス期におけるテキスト、学者そして政治、早稲田大学、査読無、論集編纂中

Amadeo Murase, Analogie als Magie: Paracelsus und der *Liber de imaginibus*, Neue Beiträge zur Germanistik, Internationale Ausgabe von Doitsu Bungaku, 査読有, 17/1(通巻157), 2018, 15-35.

村瀬天出夫、パラケルスス、ゲーテ、ホムンクルス、歴史評論、査読無、824号、2018、63-71

[学会発表](計7件)

村瀬天出夫、初期近代ドイツ語圏のパラケルスス主義、比較思想研究会講演会、大東文化会館、2018年6月2日

Amadeo Murase, *De imaginibus* and *De natura rerum*, Homunculus, palingenese, transmutation, questions sur la vie et la mort: autour de Paracelse, Ecole Normale Supérieure Paris, 2017年12月6日

Amadeo Murase, The Chemical Eschatology of a German Paracelsian, History of Science Society Annual Meeting Toronto, 2017年11月11日

Amadeo Murase, German Paracelsian Paul Linck and his Alchemical Eschatology, Renaissance Society of American Annual Meeting Chicago, 2017年4月1日

Amadeo Murase, Alchemie und Eschatologie. Der deutsche Paracelsist Paul Linck und seine Heilsgeschichte, Internationale Symposium: Texte, Gelehrte und Politik im Zeitalter der Renaissance, Waseda University, 2017年2月20日

Amadeo Murase, Paracelsus und seine Rezeption in der japanischen Moderne, Asiatische Germanisten-tagung, Chung-Ang University, Seoul, 2016年8月25日

Amadeo Murase, The Eschatological Image of Paracelsus in *De tinctura physicomum*, International Symposium: Pseudo-Paracelsus, Villa Vigoni, 2016年7月27日

〔図書〕(計2件)

池上俊一(監修)、村瀬天出夫(共訳)、名古屋大学出版会、原典ルネサンス自然学上巻、2017年、638(555-578)

村瀬天出夫(共著)、化学同人、化学史事典、2017年、985(325-327)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

<https://www.pseudoparacelsus.org>

<https://www.ens.fr/agenda/homunculus-palingenese-transmutation-questions-sur-la-vie-et-la-mort/2017-12-05t090000>

<http://www.cellf.paris-sorbonne.fr/journee-detude/homunculus-palingenese-transmutation-questions-sur-la-vie-et-la-mort-autour-de>

<http://www.medievalstudies.jp/information/news20170104c/>

6. 研究組織

(1) 研究分担者

なし

(2) 研究協力者

なし

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。